

厚生連だより

Letter of JA Mie Koseiren

千代崎海岸（鈴鹿市）



もくじ

新築移転から5年が経って	2
手術室生体情報モニターを一新	3
「移転20周年記念病院祭」を開催します	3
改名 血液浄化センター	4
自動微生物同定質量分析装置が導入されました	5
心大血管疾患リハビリを開設しました	5
平成29年度松阪中央総合病院DMAT活動報告	6
救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受けました	6
『手指衛生キャンペーン2017』を開催しました	7
治療食 紹介します	8

JA三重厚生連の基本理念

JA三重厚生連は、医療・保健・福祉活動を通じて、組合員と地域住民の皆さまが、安心して健やかに暮らせる地域づくりに貢献していきます。

#74
2017. Oct.

新築移転から5年が経って

南島メディカルセンター センター長 式田年晴

今春で現在の南島メディカルセンター（以下、南島MC）に新築移転し、5年が経過しました。あつという間の5年間であり、短い月日ですが、少し振り返ってみたいと思います。

新築移転の前後で比べても、外来、一



式田センター長

伊藤名誉院長

般病床（15床）、医療併設型小規模老健（29床）、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所からなる医療・介護を一体とした経営により地域に貢献するという基本コンセプトに変わりはありませんでした。しかしながら、新築移転に伴う新たな事業展開として、通所リハビリテーション（デイサービス）を開設することが、ひとつ大きな目標としてありました。

数年来、当地で外来診療をしていて、高齢者の脳卒中、外傷後などのリハビリ難民の多さに苦慮し、改善策の必要性を痛感していました。そこで平成24年の新築移転を契機に通所リハビリ

サービスを立ち上げる事としました。しかしながら、それに関わる理学療法士、看護師の絶対数の不足は否めず、平成27年5月、なか

ば見切り発車で通所リハビリを開設しました。その後は利用者も徐々に増え、平成28年度の延べ利用者は約600人となりました。現在は、約3か月間を1クールとして順番待ちの状態を利用していただいています。心配していたスタッフの不足は、職員らの協力で工面しています。リハビリの補助、アシスタントは看護師に手伝ってもらい、患者の送迎は事務職員、理学療法士が交代で行っています。利用者にはまだまだ満足してもらえませんが、職員全体でこのサービスをより良いものにしていきたいと考えています。

一方、地域医療における問題もより深まってきました。①地域の高齢化と人口減少、②地域における医師を含む医療人材の不足です。

①については全国津々浦々、共通の問題であります。特に南伊勢町において高齢化、人口減少はより深刻であり、同時に②の医師の不足、偏在の問題があります。さらに看護・介護の需要は高いにもかかわらず、それを提供

する人材が不足しています。これは2025年問題と重なり、より深刻な問題です。

南島MCも例外ではなく10年以上医師の常勤採用がありません。しかし診療圏域を南伊勢町全体と考えた場合、同じ町内の南勢地区には町立南伊勢病院があり、また近々新築移転の予定となつていきます。今後は地域包括ケアシステム確立のため、両施設がより連携を深め、協力していく必要があると考えます。

最後に新築移転からの5年間、世の中の動向として、社会福祉施設等における職員のモラル低下や犯罪的な行為が大きな社会問題となつていきます。しかし、幸いにも当施設の職員の職業意識、社会的モラルは高く、大きな不祥事、トラブルもありませんでした。このことは、管理者として深く感謝しています。今後も、職員全員で安全で快適な医療・介護福祉サービスを提供できるよう南島MCを運営していきたくと考えています。

手術室生体情報モニターを一新

松阪中央総合病院 麻酔科部長 西村 佳津



手術中、オシロスコープの心電図のアラームがうるさいと音を切るように命じる外科医の傍らで看護師が患者さんの脈をとり、水銀計で血圧を測るなんて時代は知る由もありません。今では、基本的とされる血圧計、心電図、経皮的酸素飽和度は病棟回復室では当たり前ですが、手術室では更に高度な

モニターを使用しています。酸素飽和度一つをとっても心臓手術や脳外科手術では脳の酸素飽和度は必須ですし、血液還流の程度や非侵襲的に血中のヘモグロビン濃度を推定できる機種もできています。スワンガンツカテーテルからの指標に加え、麻酔では欠くことのできない呼気中の二酸化炭素濃度やガス麻酔薬の濃度、脳波や筋弛緩のレベルまで計測できます。

これら多くの指標をそれぞれの器械の画面で読み取るとなると大変な労力となってしまう。今回導入されたファイリッパス社製のモニターでは、モジュールを加えることで、また様々な種類の器械とリンクすることで、一つの画面で多くの指標を一覧することが可能となっています。さらに、その情報を一元的に管理することで、今後導入予定の電子麻酔記録に正確に出力することも可能であり、医療安全管理の面でも大いに貢献してくれること

が期待できます。

基本モジュールには基本的な血圧などを見ることができ、小画面がついておりバッテリーも内蔵しているので、重症患者さんを手術室からCTやMRIなどの放射線部門、または病棟へ搬送する際そのまま持ち出すことができ、災害時などにも役立つ仕様となっています。もちろんそれらの情報を有機的に判断し、的確な判断・処置を下すのが麻酔科医の仕事ですが、あらゆる面でコンピューター制御がなされるこの時代、コンピューターが麻酔科医の仕事を奪ってしまう日がやってくるかも知れません。器械に負けないように、麻酔科医は日々研鑽をしています。麻酔管理に必要な様々な指標を示してくれるこのモニターは、患者さんの安全と安心を向上させてくれることは間違いありません。同時に、麻酔管理手術のレベルアップにも繋がっています。

松阪中央総合病院 「移転20周年記念 病院祭」を開催します

当院は、平成9年に松阪市鎌田町から川井町（現住所）へ新築移転し、今年で20年の節目を迎えることが出来ました。これらひとえに、地域の皆さまをはじめ関係各位の温かいご支援、ご協力の賜物と深く感謝しております。

今後もこれまで以上に、地域の皆さまから信頼されるような病院を目指して、また感謝の気持ちを込めて、平成29年11月11日に「移転20周年記念 病院祭」を開催致します。各種イベントを企画しておりますので、是非ご来場をお待ちしております。

改名 血液浄化センター

三重北医療センター 菰野厚生病院 血液浄化センター 看護主任 小池 秀昭

当院透析室は昭和53年に開設以来、地域における透析医療の中心としてその役割を担ってきました。平成27年、かねてより要望の強かった送迎を開始

したところ透析患者さんは急増し、新規の患者さんを受け入れることが困難となったため、平成29年8月に透析室を改修しベッドを25床から41床に増床いたしました。これを契機に今後も透析医療に力を入れていきたいとの思いから「血液浄化センター」と改めました。スタッフは医師2名、看護師13名、臨床工学技士3名、看護補助員1名、事務員1名で構成しており、110名を超える患者さんを2シフト・2クール制で治療しています。シャントトラブルに対する経皮的血管形成術(PTA)や手術はもとより循環器系



合併症の早期発見等、17診療科を有する病院としての強みを十分発揮して診療に取り組んでいます。当院では透析患者さんの平均年齢が他施設に比べ約10歳高く、オンライン血液濾過透析装置(オンラインHDF)2台、間歇補充型血液透析濾過装置(IHDF)14台を設置して、安全かつ安心して透析医療を受けていただける体制を整えています。また、病棟での透析、持続的血液濾過透析(CHDF)、吸着療法等血液浄化療法にも看護師と臨床工学技士が協力して積極的に対応しています。近年はフットケアに重点をおいて血管外科と連携し看護師による足観察を実施することにより、下肢切断阻止を目標に取り組んでいます。シャントに関しては侵襲を減らす目的でエコー装置を購入し狭窄の早期発見に取り組みうと、看護師・臨床工学技士で日々努力しています。菰野町はもとより、四日市市、いなべ市も医療圏の視野に入れ高度な透析医療を提供していきたいと考えています。

合併症の早期発見等、17診療科を有する病院としての強みを十分発揮して診療に取り組んでいます。当院では透析患者さんの平均年齢が他施設に比べ約10歳高く、オンライン血液濾過透析装置(オンラインHDF)2台、間歇補充型血液透析濾過装置(IHDF)14台を設置して、安全かつ安心して透析医療を受けていただける体制を整えています。また、病棟での透析、持続的血液濾過透析(CHDF)、吸着療法等血液浄化療法にも看護師と臨床工学技士が協力して積極的に対応しています。近年はフットケアに重点をおいて血管外科と連携し看護師による足観察を実施することにより、下肢切断阻止を目標に取り組んでいます。シャントに関しては侵襲を減らす目的でエコー装置を購入し狭窄の早期発見に取り組みうと、看護師・臨床工学技士で日々努力しています。菰野町はもとより、四日市市、いなべ市も医療圏の視野に入れ高度な透析医療を提供していきたいと考えています。



自動微生物同定質量分析装置が導入されました

鈴鹿中央総合病院 中央検査科
認定臨床微生物検査技師 別所裕一



平成29年6月、JA共済からの助成を受けて、当院中央検査科に自動微生物同定質量分析装置MALDI Biotyper（マルディバイオタイパー・ブルカードルトニクス社製 ドイツ）が導入されました。この質量分析装置は感染症の原因となる細菌や真菌など微生物を迅速検査する装置として開発され、報告に日数を要していた細菌検査分野で、迅速報告を可能とした画期的な分析装置として注目されています。国内では大学病院や検査センターを中心に100台程度が稼働しており、三重県内で2台目、県内市中病院では初めての導入となります。質量分析装置はMALDI-TOF MS（マトリックス支援

レーザー脱離イオン化・飛行時間型マスペクトロメトリー）を原理としており、2002年島津製作所の田中耕一博士がこのMALDIに関する研究技術が認められノーベル化学賞を受賞されています。

この質量分析装置は1分程度で微生物を決定することができます。この迅速性を生かし、より早い感染症診断・早期治療が可能となります。また、2015年開催のエルマウサミットや2016年開催の伊勢志摩サミットでは、世界中の薬剤耐性菌を減らし、新たな耐性菌の出現を防ぐことが宣言されました。これをもとに作成された薬剤耐性（AMR）アクションプラン（2016-2020）の中で抗菌薬適正使用に向けた分析装置としても掲載されており、その効果についても注目されています。

当院中央検査科では従来の検査方法に加え、この質量分析装置や遺伝子検査を活用し、正確かつ迅速な検査報告に努めてまいります。

心大血管疾患リハビリを開設しました

大台厚生病院 理学療法室 理学療法士主任 角谷 孝

平成29年4月、脳血管リハビリテーション・運動器リハビリテーション・呼吸器リハビリテーションに加えて、心大血管疾患リハビリテーション（以下、心リハ）を開設しました。

心リハ開設については、当院の中井院長が総合内科に加え循環器科も専門分野であることからかねてより強く要望されていました。開設するまでに

は、①ハード面（備品・器具）の整備、②専用の機能訓練室の面積基準、③技師の確保、④多職種による心リハカンファレンスの開催・チーム連携の確立などのクリアすべき課題が多くありましたが、徐々に準備を進め、開設できる状況となりました。

現在、当院では入院患者さんを対象とした訓練を実施しています。心リハを早期から開始することにより身体機能の低下や心臓病の再発を防げるよう運動療法やADL訓練を行っています。以前は施設や療養病院等に転院される患者さんが多かったのですが、心リハの実

施により、入院前と同じように在宅へ戻り、住み慣れた地域での生活を継続できている患者さんが増えたと実感しております。これからも、医師をはじめとする多職種でのチーム医療の質をさらに高め、多くの患者さんに社会復帰の支援ができるようにスタッフ一同取り組んでまいります。



リハビリスタッフ一同

平成29年度 松阪中央総合病院DMAT活動報告

松阪中央総合病院 救急科部長 星野 有

平成29年7月29日、南海トラフ巨大地震を想定した内閣府主催の平成29年度大規模地震時医療活動訓練に当院の災害派遣医療チーム(DMAT)が参加いたしました。想定は、大地震により、三重県、和歌山県、大阪府、兵庫県が被災し、人的被害とともにライフラインの甚大な被害が発生し、松阪地区では地盤沈下、液状化が激しいというものでした。この訓練に当院DMATとして、神経内科の宇野医師をはじめ



とする医師2名、看護師2名、薬剤師1名、事務員1名、ボランティア5名の合計11名の職員が参加しました。今回の訓練項目は、下記①から⑥でした。

- ① 松阪市災害対策本部、松阪地区DMAT活動拠点本部との連携
- ② DMATを中心とした少人数で実施する院内暫定災害対策本部活動
- ③ 松阪市災害対策本部でのクラスターミーティング
- ④ 支援DMAT 2チームとの受援訓練
- ⑤ 重症患者のトリアージと地域および広域医療搬送図上訓練
- ⑥ 不足医療資材の要請と受領実働訓練

どの項目においても十分な訓練成果が得られ、特に③においては、初の試みである松阪市長を含めた松阪市災害対策本部との充実した合同訓練となりました。

救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受けました

松阪中央総合病院 総務課長 玉岡 直樹

このたび、当院は平成29年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞しました。

この表彰は厚生労働大臣が長年にわたり地域の救急医療の確保、救急医療対策の推進に貢献した個人や医療機関

等団体の功績に対し、表彰を行うもので、当院が長年、松阪地区の2次救急病院および小児医療拠点病院として救急医療に尽力してきたことが認められたものです。

平成29年9月8日(金)に厚生労働省



中央合同庁舎にて開催された表彰式で、個人22名と16団体が表彰を受け、当院からは三田 孝行院長が出席して表彰状と記念品を頂きました。このたびの受賞を励みに今後も地域の救急医療に貢献できるよう努めて参ります。



井ノ口事務部長 三田院長 村林看護部長

『手指衛生キャンペーン2017』を開催しました

三重北医療センターいなべ総合病院 感染管理専従 感染管理認定看護師 石川 美菜子

感染防止対策には、標準予防策が重要でありその中でも手指衛生は最も効果的だと言われ、感染防止対策の基本とされています。しかし、意識をしないとなかなか遵守できないのが手指衛生でもあります。そこで、いなべ総合病院院内感染対策チーム(ICT)では手指衛生の大切さを再認識し、手指衛生向上を目指すことを目標に『手指衛生キャンペーン2017』を実施しました。

一つめはICTメンバーが作成した手指衛生啓発ポスターの掲示です。ICT各委員がポスター制作に取り組み、素敵な作品が出来上がりました(写真)。そのポスターを職員食堂前や、正面玄関ホール中庭前、患者用エレベーター内などに展示し、職員のみならず患者さんにも見て頂き、手指衛生の大切さや当院の取り組みを知って頂きました。


二つめは「手洗い検査結果発表」です。手洗い検査はICTの取り組みとして前任者の代より続いている全職員

を対象とした取り組みです。当院自作の手洗いチェッカーを使用した手洗い検査を実施し、部署ごとの平均点で評価します。今年度も302名という多くの職員に参加して頂きました。優秀部署は、手術部門、中央処置室、栄養課、透析室でした。手洗い検査の目的は、洗い残し部分を認識してもらい、質の高い手洗いを行ってもらうことです。質の高い手洗いを目指し、今後も続けていきたいと考えています。

一つめは「手指衛生川柳コンクール」です。手指衛生に関する川柳を公募し、優秀者を投票で決定しました。ユーモアに溢れ、思わずクスッと笑ってしまうものや、王道のもの、個性あふれる川柳が27句集まりました。その中で優秀賞に輝いた句は「見えない菌 いつもみんなの そばにいるよ」です。優秀者には、ICT委員長の角田医師による表彰と心ばかりの景品を授与させて頂きました。

感染防止対策は、院内に関わる全ての人が実施しなければ目的は達しえ

ません。手指衛生キャンペーンは小さな活動です。しかし全ての職員が、「すべての患者」「すべての同僚」そして「自分自身」を感染から守るために、適切な感染防止対策ができる日を望みつつ、小さな活動を積み重ねていきたいと思っています。



優秀賞

見えない菌
いつもみんなの
そばにいるよ



↑ ICT 会議でポスターを作成しました。



↑ 玄関ホールに展示したポスター



治療食

紹介します② 腎臓病食

松阪中央総合病院 栄養管理科長 北岡伊久子

病院食には、「一般食」と「特別食(特別治療食)」があります。
一般食は、特別な制限がない食事で、流動食から五分粥食、全粥食等の段階食や常食、嚥下調整食などがあります。特別食は、疾患に応じた食事療法が必要な食事で、医師の指示に基づいた制限のある食事となります。

【腎臓病食】

1日 1700kcal
蛋白質 50g 塩分 5g



塩分・蛋白質の制限、カリウムの制限、エネルギー確保などを調整した、患者様の病状に合わせた制限食となります。
低蛋白ごはんや低蛋白・高カロリー食品(菓子・ゼリー)を使用することもあります。

● 献立作成・調理のポイント

- ・主菜の鯖は60gと小さめですが、エネルギーを補うため、揚げ物など油を使った料理を組み合わせます。
- ・和え物はごまの香りを生かして薄味に…。
- ・味噌煮は、生姜を使って生臭さを取り、あっさり煮付けます。

● 作り方(材料夕食1人分)

《ごはん》*ゆめごはん…180g

腎臓患者用食品(キッセイ薬品)
蛋白質が普通のごはんの1/35です

《鯖の味噌煮》

- 鯖…60g
- 砂糖…6g
- 味噌…8g
- しょうゆ…2cc
- 酒…5cc
- みりん…5cc
- 出し汁…100cc
- 生姜…5g

《かき揚げ》

- 玉葱…20g
- 人参…5g
- ごぼう…20g
- 葱…5g
- 小麦粉…10g
- 卵…8g
- 油…10g
- ソース(小袋)…3cc

《千草和え》

- 青菜…70g
- 人参…10g
- もやし…10g
- ごま…2g
- しょうゆ…3cc

栄養量

1食1人分

エネルギー	617kcal
蛋白質	17.5g
脂質	18.7g
塩分	1.1g

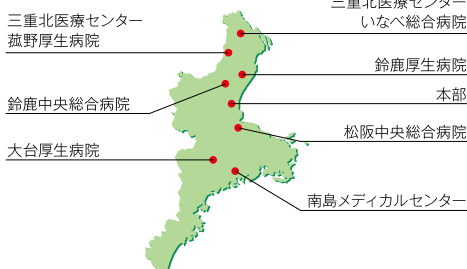
JA三重厚生連

看護師
看護補助員

助産師
介護福祉士

募集

人に 地域に やさしい看護



厚生連だより #74 2017.10発行

発行/ 三重県津市栄町1丁目960番地

三重県厚生農業協同組合連合会

TEL 059-229-9191 FAX 059-224-4354

http://www.miekosei.or.jp/ Email:info@miekosei.or.jp